



16 国方林三 活歩

大正二年(一九一三) ブロンズ
一三・五×三三・〇×三二・五

一点

袴に束髪の三人の女学生が本を抱えて並んで歩く姿を愛らしく表す。当時、限られた子女のみが通うことが出来た女学校に通う、そのはつらつとした様子は、新しい時代を示す姿でもあった。作者の国方林三(一八八三〜一九六七)は香川県に生まれ、富山県立工芸学校で鑄金を学び、明治二十三年に上京し、天海の号で鑄造家として活動、後に太平洋画会研究所で木炭画および塑造を学んだ。明治四十年の第二回文展に入選し、以降、帝展、新文展、日展に出品し審査員も務めた。本作は大正三年に開催された東京大正博覧会の展覧会図録に写真が掲載されており、本作が出品作そのものかは確認できていないが、発表後まもなく宮内省に入ったものと考えられる。箱書には「闊歩置物」とあり、「大正二年之秋国方林三作」の鑄造銘がある。国方は同年の第八回文展に「種蒔女」(御物)を出品しており、人々の生活の中から主題を採り上げ、塑造で写生風に表した作品に取り組んでいた時期の一点である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections